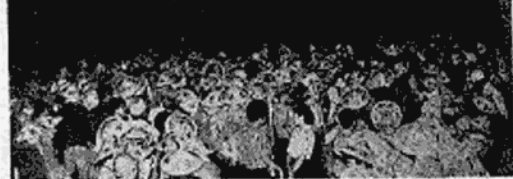


# PHOTO誌

八月の行事から



### 二荒山神社にあつまつた登山者

ふだんは、紙面の関係で、なかなか市内の登山者を紹介できなかった。しかし、八月の登山者も、いろいろある。八月の登山者も、いろいろある。八月の登山者も、いろいろある。

ついでに、このたまたまの、今年の、あつた、八月の、登山者も、いろいろある。八月の登山者も、いろいろある。

### 山をうずめた

## 若いグループ 盛大だった 男体山登拝祭

今年の男体山、山開きは、昨年以上のにぎわいをみせ、一万五千人もの登山者があつた。

荒山神社はじめ警察、地元関係者などの神経のいたるところに警戒をめぐらし、登山者自身が山に對する、十分の心がまえをも

### 何よりの贈物

## 日光小プール完成

七月号でお知らせした日光小学校のプールが、完成した。このプールは、長さ二十五メートル、幅十メートル、深さは七十五センチのものだ。市内の学校では、はじめてのもの。総工費百五十万円を投じたこの立派なプールは、八月十二日完工式を行ない、その日から使用開始。児童にとつては、何よりの贈物。先生がたの見守るな

### 武道三題



夜間照明の前で剣舞

八月十二日夜七時、夜間照明に輝く山内五重の塔前に、剣道のけい古着姿の少年剣士二十四人が集つた。

この少年剣士は、東照宮の剣道場少年部の剣士たちで、かがり火をかこみながら「川中島」一日本刀の剣舞を舞つたあ

と、笛、太鼓もにぎやかに、和楽おどりをとおどし、夜間照明見物に集つた観光客を楽しませた。



## 松原町と安良沢Aが優勝 第11回児童体育大会

第十一回日光市児童体育大会は、松原町と安良沢Aが優勝を挙げた。



(野球決勝戦)

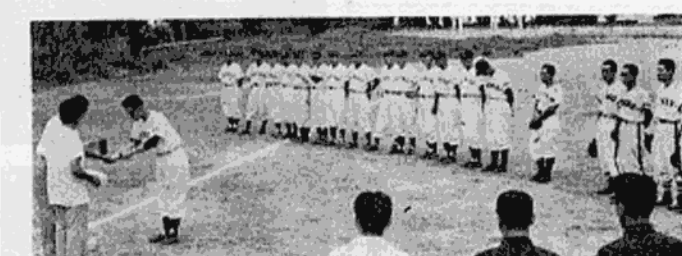
写真(上)できあがつたプール (下)元氣な児童

## 終戦十五周年の日に…… 戦没者慰霊祭挙行

八月十五日、終戦十五周年の日に、戦没者慰霊祭が、公会堂で挙行された。



(公会堂の慰霊祭)



八王子市と日光市は、千人同心火の番の昔から、姉妹都市のような関係にあり、最近でも数回の交流の機会をもつて、八月にも二つの行事があつた。その一つは、両市婦人会が八月十一日の両日、山内紫雲閣でなごやかな交歓学習をした。八王子市からの参加は四十九名、文字とお刺し、姉となり妹となつて婦人会活動を話し合つた。また二十七日には、八王子市役所野球部二十名をむかへ、日光市役所野球部との親善試合を行つた。七対一で日光の快勝をおわつたが、両市の選手はかたく手を握りあつた。

## 友情でむすばれる 八王子市と日光市



## 暮らしの一家



住 九月には、数回台風がやってくると思つてまちは、戸だなのカビ、天井や壁のくもす、ガラスのよごれなど、夏の間の乱れを一掃して、味覚の秋の調理場としたい。秋まきの花の種など、彼岸前におわりた作業の一つ。さあ、台風がやってくる。屋根は、へいは？、大事な植木にも、ささえをし

## 衣

洋服がふだん着になつたいま、季節の衣替えなどという言葉が、あまりびつたりしなくなつた。九月の洋服は、夏着の上、朝夕、はるもの、一枚あれば十分、そんな用意を家族全部にまず整え、その上で予定の秋の衣履準備にかかろう。新調は計画的に春秋兼用の合着を、ご婦人なら、なにか附属で、秋の色感をもつてもたのしい工夫。ふとんの手入の仕立したもの、なるべく彼岸のころまでに仕上げ、夏ふとんの仕立かえなど手ざわ

## 食

涼しさが続くと思つても、食物の操作に手ぬかりがでるもの、調理にも、貯蔵にも、また食中毒の警戒をした季節。涼風とともに増してゆくから、食品の取り合わせには、十分気を配らう。今月は、台風の本格的シーズンなので、こんなときのため、かん詰やイモ類、カボチャ、タマネギなど、貯蔵のきく野菜を、いつもたやさぬのも、家庭をあずかるもの、大切な心がけ。

## 季節の手帳

新涼、残暑、台風と九月の天候は複雑ながら、雲のゆきか、草木の色も、さすがに秋らしく変わる。勤労者も、農村の方がたも、これからは、農家の仕事もあがってゆく。家庭では、秋の準備と、夏の始末を、季節の移り具合をみながら適当に整理したいものである。老人の日(十五日)や秋分の日(二十三日)を中心に、なにか家庭のレクリエーションを企画するのも、家にあずかるもののため、美術の秋であり、音楽の秋である。

長月 九月を長月といふのは、夜長月の意味で、陰暦の九月の別名。陽暦では十月にあたる。陰暦九月の異名としては、長月のほかに、菊開月、季秋、玄月、授衣、朽月などがある。英語でSeptemberというのは、この月がローマの古い暦の七月にあたるので、September(セプテム)から名づけられたという。

秋の七草 七草には、春の七草と秋の七草がある。秋の七草の由来は明らかでないが「秋の野にさきかえり花を指折りかき数うれば七草のはな」と万葉集にあるから、よほど古くからあつたものらしい。古くは、はぎ、おぼろ、くす、なでしこ、おみなえし、ふじばかり、あさがは、となつてゐるが、あさはは外国産なので、むくげの花が正しいのではないかとの説もある。それが、いつとはなしに、ききよになつて、今では、あさがはかわりに、ききよが入つて、秋の七草になつてゐる。

今月号から、服部ミエコさんに「暮らしの一家」を連載していただきます。この一家は、健康で、ゆかいで、ものしりです。どうぞよろしく。